

日本の昔話

16

日本放送出版協会

美濃の昔話

一稲田浩二監修・編

監修・編者

稲田 浩二

1925年岡山市生まれ。広島文理科大学を卒業し、現在、京都女子大学文学部教授。

主著・主論文に『昔話は生きている』『説話文学必携』
(共著)「日本霊異記話型の一考察」「今昔物語集の説話性に関する試論」などがある。

日本の昔話 16

<検印廃止>

美濃の昔話

定価 1800 円

昭和52年 4 月20日 第1刷発行

監修者 稲田 浩二

編者 稲田 浩二

発行者 浅沼 博

印刷 凸版印刷

製本 石津製本

発行所 日本放送出版協会

東京都渋谷区宇田川町 41-1

郵便番号150 振替東京1-49701

©1977 Koji Inada

落丁本・乱丁本はお取替いたします

0339-015016-6023

敬畏へのき長ちのい

二 浩 田 稻

遠いわれらの祖先から口づたえに伝えられてきた日本昔話の現状は、たとえていえば、目に見えない地下水のようなものです。それは、あわただし情報と速度に飲みこまれた人々にとっては多分だんの生活には無縁であり、ときおりふとなつかしむ過ぎ去った日々、ふるさとのようなものでありましょう。けれども、その地下水は、いまもつつましく生きている、心ある人々がその気になつてたずねるならば、やさしくことばをかけ、耳を傾けるならば、意外にみずみずしいことば——昔語りが地上にわき出るものなのです。わたしどもは、ここに一九七〇年代の一つの証言として、日本の各地にわたるこの種の実験をありのままにみなさまにご報告いたしたいと思います。

昭和の初年、柳田国男が昔話を学問の対象とした当時、すでに昔話は生活の表面から姿をかくしかけていたようです。柳田国男はこれを愛惜し、一日も早い調査をと人々に訴えています。それから半世紀たったいま、昔話はいっそう地表から深くもぐり、代ってブラウン管や活字の「民話」が

人々の目をうばっております。それにいちいち目くらをたてるというではありません。新しい皮袋に盛られて、「民話」はどこへ向けていくのか、多少の不安をもって見守りたい、とわたしなどは思っております。ただ、これまでこれほど一律に昔話が扱われたことはなかったので、昔話の世界も年とともに従来なかった変化を蒙るのではないかと思います。いや多分それはもうある程度まで進行しているにちがいありません。東北に伝承してきたはずの昔話が、ブラウン管や活字をへてこつ然として山陽地方に現われてくるということです。したがって、昔話が村や町、家々に伝わるという土着的・風土的な本質は、よほど注意深く扱わないと裏切られることになります。

「日本の昔話」はこの意味でかたくなに、村々家々に口づたえされてきた昔話に限って収めることにしました。編集にたずさわる皆さんはいちいち語り手のところにおもむいて、一つ一つの話を聞き出し、録音テープに収め、これをそのまま文字に移すことにしました。それはぶこつだけれど、ありのままの口づたえの姿を最もよくとどめるものだと思うからです。したがってこれは、読者のかたにそれほど口ざわりがよくない食べものかもしれないかもしれません。土から掘り出したままの、いわば料理の素材だからです。ただそれをじっくり噛みしめていただけるなら、現代日本のつましい素顔の一つに出会えるはずです。テレビや書物でなめされない、日本人の飾らないものの見方、表現、よろこびとなげき……総じて日本人の人生のありのままがこめられています。

どうしたわけか、これらのことばは、同じ棟の下に住んでいる家族でさえも耳にすることがほと

んどないものです。語り手ご自身も多くの人が何十年ぶりに語ったという種類のものです。したがって、大部分の話がたまたまよい聞き手の編集者に出会って、水を得た魚のようにふき出して世に出たものです。いまわたしどもは、これを命長きものへのいとおしみと畏敬の念をもって世にありたいと思います。これがよい読者をえて、新しい明日をうんでいくかとなれば、語り手とわたしどもの望外の幸せであります。

一九七七年四月

はしがき

京都から新幹線に乗ると、席のあたたまるまもなくそばだつ伊吹の連山が目にはいる。ここはすでに近江と美濃の国境。やがてくる冬は風雪きびしい関ヶ原である。

岐阜県の郷土文化といえ、人はとかくいわゆる飛山の地、飛驒地方を思い浮かべる。昔話の調査もやはりそうであって、昭和八年の『飛驒の伝説と民話』（高山西小学校研究部）以来、近くは昭和四五年の『奥飛驒地方昔話集』（国学院大学民俗文学研究会）に至るまで、もっぱら飛驒地方に注目してきた。その意味で、伝承のおとろえた現在ではあるが、美濃地方の伝承を少しでも記録しておくことは、年とともにかえって必要なことと思われた。一九七三年（昭和四八年）からあしかけ三年、一九七五年まで、延べ八十人の京都女子大学の若い学生諸君を中心とした調査団によって、東は恵那郡・加茂郡から西は揖斐郡に至る五町村の三百名近い方々から約六百話の民間説話を聞き、その録音テープからできるだけ忠実に翻字したものを選んだのが本集の一四九話である。不十分ではあるが、これで美濃地方のつましい人々のなまの声をいくぶんかはうかがうことができるだろう。いくらか予想はしたことはあったが、美濃地方の伝承は必ずしも豊かとはいえなかった。けれども、いくらか土地を移動するたびに思わぬ珍奇な話に出あうよろこびがあった。昔話のはじめの

句、しまいの句のいちじるしい変わり方がよくそれを示している。白川町では、「むかしむかしさる昔」「むかしむかしさる昔、猿が三匹おったげな」と、古風な語りだしを保存する語り手が多く、大和村では、一話のしめくりに「これでちょっこり、きのこわし」「それもちょっこり、きのこっぱ」など、会う人ごとにたのしい結びことばをたのしむふうがあった。町々村々で自分の語り口をもっているというのは、それぞれの他の伝承の強い土着性を示すものであろう。

美濃を代表する昔話といえ、まず「鳥飲み爺」をあげねばなるまい。その語りだしに、人それぞれ工夫があった。

お爺さんとお婆さんがおって、お爺さんは山へ行って木を切っておったら、珍しいことを言つて鳴く鳥がおって、ほいでつかみたいと思つて、それこそお弁当の米を練つて、それから木に塗つていつかまえた。ああ、つかまえたことはいいが、うちへ持つていくと、みんな子どもがほしがるんで、持つていくとけんかのもとになるで、まあ自分がここで飲んじまおうと、飲んでしまった。……

（山岡町 三浦了三）

お爺さんが畑で仕事しとったら、おなかがすいてまったんで、火をたいて、どっかに食べものないか捜しに行ったら、空から鳥が落つてきて、それを飲んだら、……（谷汲村 今井とも子）

ちなみに、今井とも子さんは当時、小学校二年生で、もっとも若い語り手であった。

いちじるしい伝承は、たとえば谷汲村の「夜叉ヶ池」の蛇婿入り、大和村の「貸し梔淵」のように、昔話の根強い伝承が伝説の形をとることであった。いずれも「濃水」の呼称にふさわしい水にゆかりの話である。

さてこの書の誕生までには、まことに多数の方々の惜しみないお力添えがあった。最初に一連の調査計画を立てるに当たって、当時岐阜県立図書館におつとめの森下忠雄氏の周到なご助言は後々まで私どものよき案内となった。また現地の教育委員会、とりわけ尾藤政之氏・野田直治氏・箕浦俊三氏（大和村）、寺田武夫氏・野網誠氏・松井正良氏（谷汲村）、服部俊一氏・宮地祥敬氏（山岡町）、田中健太郎氏・紀藤順一氏・鈴木慶隆氏・鶴見善一氏（岩村町）、今井薫氏（白川町）の皆さまをはじめ、老人会、語り手の皆さま、とりわけ須甲ますよさん・畑中妙子さん（大和村）、佐々木時江さん（岩村町）の細心のお心くばりにあつく御礼申しあげる。そしてこの叢書では二冊にわたり、力のこもったカットを寄せてくださった田島征彦氏に感謝の意を表したい。

一九七七年三月

稲田 浩 二

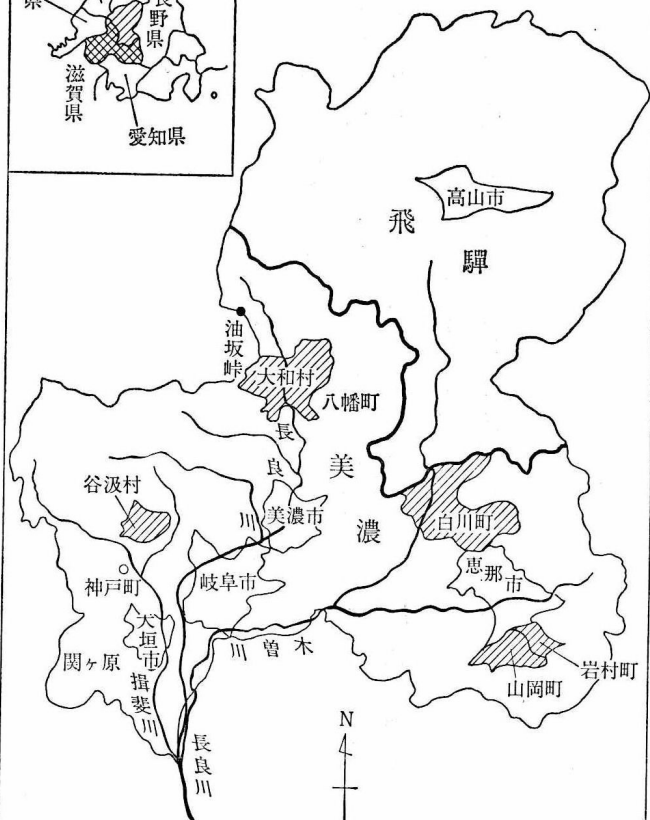
凡 例

- (1) 本文はすべて調査時における録音テープから翻字したものです。
- (2) 本文の題は語り手、または編者がつけたものです。
- (3) それぞれの本文の後に、参考として『日本昔話名彙』（柳田国男監修・日本放送協会編、日本放送出版協会刊）の話を示しました。また『名彙』になくて『日本昔話集成』（関敬吾著、角川書店刊）に参照すべき話型があるときは、それを示しました。
- (4) それぞれの本文の後に、その話の語り手の住所と氏名をしるしました。



岐阜県全図

(斜線・調査地)



目次

いのち長きものへの畏敬	1
はしがき	5
凡例	9
地図	10

昔話

東美濃地方——岐阜県恵那郡・加茂郡

鳥飲み爺 (-)	24
くもの笑い	26
爺と狐	27
京都のかわず	28
和尚お代わり (-)	29
おはぎは仏さん	30

大根とにんじんとごぼう	32
ここは日本	33
ほっちょかけたか	34
蟹満寺のいわれ	35
弘法機 ばた	36
鶴の恩返し	38
子育て幽霊	39
爺と鬼	40
竹切り爺	42
祝い直し	44
つごもの夜の客	46
水戸黄門と亡者	47
ばくち打ちと蛙	48
かへいくわ	49
兎食うと思えば狐食う	51
猫檀家	52
こうのとりの恩返し	53

狐の恩返し……………	54
はぜの恩送り……………	55
笠地藏……………	57
孝行坂……………	60
鳥に助けられた娘……………	62
蛇女房……………	63
鳥飲み婆……………	64
「お」の字の禁……………	65
一休ばなし (1) (2) (3)……………	67
太郎作・次郎作……………	71
月もどじょうの食いたさに……………	74
しゃもじの狸……………	75
へその下は見せられん……………	77
仁王と百川……………	78
水恋鳥……………	80
ふるぞもるぞ……………	81
ばか婿話……………	83

いたずら坊主の始まり……………	84
おひつ下の田……………	86
団子丸飲みほろほろ泣き……………	87
ほら貝と万才とにわとり……………	88
鼠経……………	89
狐と狸の化かしあい……………	91
宝物交換……………	93
油買いと狸……………	95
難題婿……………	98
オニコロコロピシヤリツ……………	103
なまぎのもえぎ……………	105
とろい婿……………	106
長い長い話……………	109

北美濃地方——岐阜県郡上郡

しっぽの釣り……………	112
ふくろうの紺屋……………	113